

ANNUAL REPORT

2020年度 活動報告書

Rural Innovation Lab

KOBE UNIVERSITY
TAMBASASAYAMA

神戸大学・丹波篠山市
農村イノベーションラボ



農村の未来を創る「地」と「知」の拠点

神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ+丹波篠山フィールドステーションは、農村地域の課題解決と発展のため、現場発のイノベーション、地域に根ざした教育と研究、地域の人材育成に取り組む拠点です。2007年に締結された神戸大学と丹波篠山市との地域連携協定のもと、神戸大学大学院農学研究科地域連携センターが中心となり運営しています。

丹波篠山には、戦後、神戸大学農学部の前身である兵庫農科大学が設立され、1966年の国立移管までの間、多くの学生や研究者が学び、研究してきました。その後、当時を知る人々が少なくなる中で改めて関係性を再構築し、「地」と「知」の発展のため、連携して活動をおこなうこととしました。

その活動の一環として、丹波篠山フィールドステーションの開設、大学生が農家に学ぶ実践農業入門や専門知識を活かし現場で実践する実践農業などの「食農コブ教育プログラム」の開講とともに、さまざまな共同研究やプロジェクトがすすめられてきました。2014年からは、地域人材育成の一つとして、大学生・大学院生が丹波篠山に住みながら自身の専門知を活かし地域の課題解決を目指す「半学半域」型の地域おこし協力隊制度を導入しました。現在では起業を目指す社会人にも門戸を開き、地域資源を活用して受入地域の課題解決を目指す「起業支援型」にも展開しています。また、「食農コブ教育プログラム」をきっかけとして、学生が自主的に学生団体を結成し、地域の課題解決や地域住民との交流活動を行っており、丹波篠山で活動する学生団体のメンバーは計200人ほどとなっています。そうした活動蓄積の上での新たな取り組みが、2016年に篠山駅構内に開設した神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボです。丹波篠山市の地方創生戦略の一つの核として、若者らの地域に根ざしたビジネスビルディング、地域でのチャレンジの支援を行うとともに、新しい農村社会像を描くような、価値創造的で、実践的な研究に取り組んでいきます。

地域連携を支える3つの取り組み

1 地域創造研究

農村地域の課題解決を目指し、新しい価値を生み出すような研究をおこないます。また、自主共同研究の実施、および研究者等が丹波篠山市で実施する調査研究の支援を通じて、現場とともに社会実験を進め、他地域へ展開可能な地域課題の解決および地域のより良い発展を目指します。



丹波篠山で実践されている研究の多くは学会だけでなく、市民に向けても広く発表しています。

2 地域人材育成

丹波篠山や農山村地域を舞台に活躍する学生や若手実践者など、地域発展と課題解決を目指したイノベーターたちの学びや挑戦、成長をサポートします。「食農コブ教育プログラム（大学生向け）」や「篠山イノベーターズスクール（社会人向け）」など、地域に根ざした実践的な学習プログラムを企画支援します。



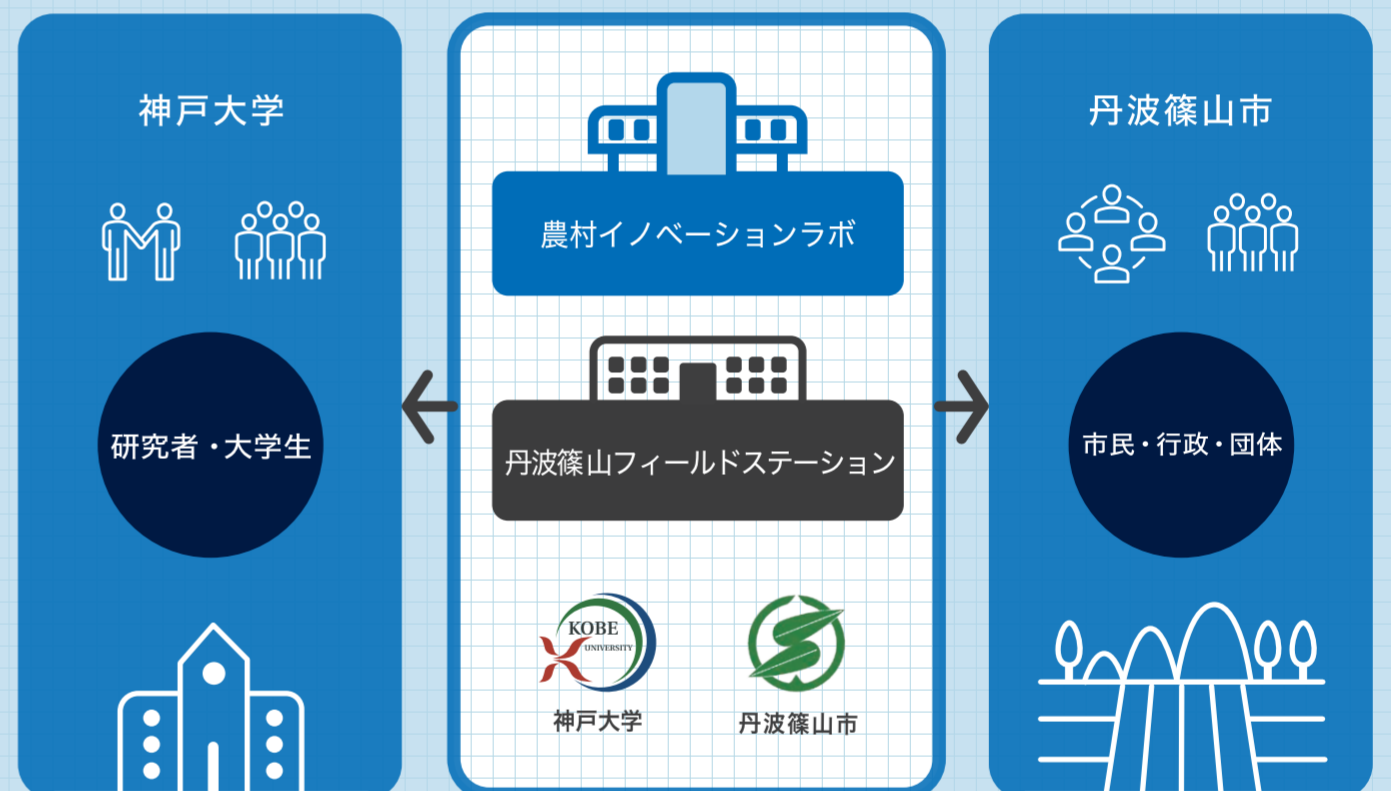
大学生から社会人まで農村を舞台にした多様な人材育成プログラムを実践しています。

3 活動・情報支援

さまざまな立場の人々のネットワークづくりを支援し、地域情報の共有と創造を進めます。各種ワークショップやセミナーなどを開催するとともに、地域づくり活動、政策についてのアドバイスやサポートもおこないます。



各種の成果発表会やセミナーなどを通じて大学の取り組みや事業を公開しています。



プロジェクトスタッフ 大学研究者をはじめ、若手研究者や実践家など分野を問わず多様なスタッフが運営しています



田中丸 治哉
リーダー
神戸大学大学院
農学研究科 教授



中塚 雅也
ディレクター
神戸大学大学院
農学研究科 教授



清水 夏樹
神戸大学大学院農学研究科
特命准教授



谷川 智穂
プログラムマネージャー(LAB)
一般社団法人 EKILAB.



河川 英樹
コーディネーター (LAB)
一般社団法人 EKILAB.



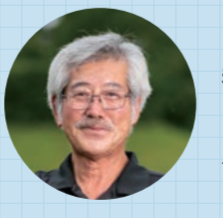
鎌田 悠子
コーディネーター (LAB)
一般社団法人 EKILAB.



瀬戸 大喜
コーディネーター
(地域おこし協力隊)
神戸大学大学院農学研究科



塩山 沙弥香
コーディネーター
(地域おこし協力隊)
神戸大学大学院農学研究科



森田 忠
コーディネーター
(地域おこし協力隊)
一般社団法人 EKILAB.



酒井 扶美
コーディネーター
(地域おこし協力隊)
神戸大学大学院農学研究科

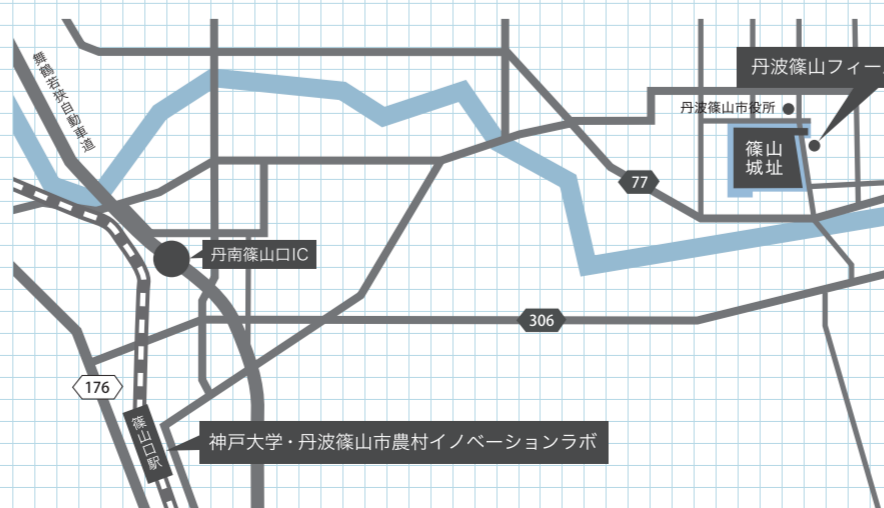
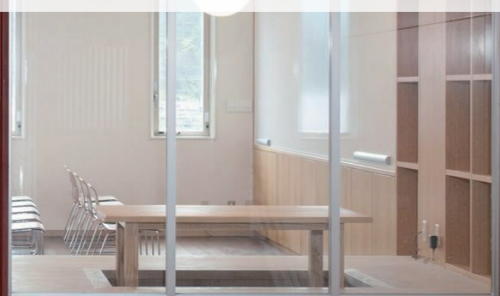


大井 弘子
事務員 (LAB)
神戸大学大学院農学研究科

Rural Innovation Lab

神戸大学・丹波篠山市
農村イノベーションラボ

神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ
〒669-2212 兵庫県丹波篠山市大沢165-3
Phone / Fax. 079-506-6628
info@sasayamalab.jp



sasayamaXkobe.univ

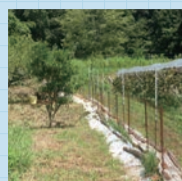
sasayamaxkobe.univ

丹波篠山フィールドステーション
〒669-2324 兵庫県丹波篠山市東新町4-5
Phone / Fax. 079-506-2366
info@sasayamalab.jp



まち・ひと・しごとの創造的な循環を生み出す

1 地域創造研究



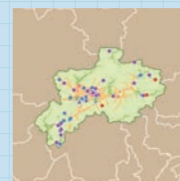
腸内細菌を用いたニホンザルの農地依存度の把握と加害レベルの判定手法の確立
清野 未恵子 (神戸大学大学院人間発達環境学研究所准教授)
KEYWORD 獣害対策、特許、都市農村交流イベント、環境創造型農業



駆除した侵略的外来生物の活用方法の研究
鈴木 武志 (神戸大学大学院農学研究科助教)
KEYWORD 侵略的外来種、外来種駆除、外来種の利活用、有機肥料化



人材育成プログラムの開発とプラットフォーム形成
中塚 雅也 (神戸大学大学院農学研究科教授)
KEYWORD 人的資源管理、起業・継業、丹波篠山キャピタル



農村移住者による起業の地理的立地条件と集積形成
谷川 智穂 (農村イノベーションラボ)
中塚 雅也 (神戸大学大学院農学研究科教授)
KEYWORD 農村移住、田園回帰、起業、集積、空間分析



丹波篠山市内の圃場毎営農状況の自動判別法の開発
長野 宇規 (神戸大学大学院農学研究科准教授)
KEYWORD 農地土地利用、リモートセンシング、耕作放棄、地域計画



篠山城跡南堀のハス一斉枯死の原因解明
鈴木 武志 (神戸大学大学院農学研究科助教)
KEYWORD 篠山城跡、蓮一斉枯死、侵略的外来種



地域在来の小規模醤油製造業の継承活動
津田 梨花 (神戸大学大学院農学研究科学生)
中塚 雅也 (神戸大学大学院農学研究科教授)
KEYWORD 醤油製造、持続的経営、事業継承、地域資源



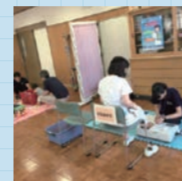
地域づくり人材育成に向けた地域分析
清水 夏樹 (神戸大学大学院農学研究科特命准教授)
KEYWORD コミュニティ維持、地域資源管理、関係人口



アフターコロナにおける農村集落の維持と活性化のための地域診断
清水 夏樹 (神戸大学大学院農学研究科特命准教授)
KEYWORD 社会経済的指標、自治会の機能、自治会活動



**新しい特産品づくりに関する研究
—香りヤマシ栽培の可能性—**
片山 寛則 (神戸大学大学院農学研究科准教授)
KEYWORD イワヤマシ



産後のマイナートラブルと生活習慣に関する調査研究事業
小野 玲 (神戸大学大学院保健学研究科准教授)
堀邊 佳奈 (神戸大学大学院保健学研究科学生)
KEYWORD 産後、マイナートラブル、腰痛骨盤痛、抑うつ、尿もれ



兵庫県丹波篠山市における市史編纂事業のための研究と検討
奥村 弘 (神戸大学大学院文学研究科教授)
松本 充弘 (神戸大学大学院文学研究科特命助教)
KEYWORD 丹波篠山市史、地域社会、地域歴史資料

2 地域人材育成

食農コープ教育プログラム

実践農学入門

地元農家に師事し、農作物の栽培やむら仕事を体験しながら、農業や農村生活に関する理解を深めます(6回)。また、体験から得た知識をもとに、地域の課題解決に向けた提案を考えるためのワークショップを含む校内学習(3回)や、農村体験活動やボランティア活動への参加(1回)を設定しています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、不開講となりました。



fundacoop <http://www.edu.kobe-u.ac.jp/ans-chiki/program.html>

実践農学 (履修者: 24名)

調査やプロジェクトに実際に参加し、農村地域における現状課題を調査・分析するとともに、課題解決に寄与する取り組みや施策の企画立案から検証実験までのプロセスを理解することを目指します。令和2年度に実施した3グループのうち、丹波篠山エリアでは「地域おこし協力隊グループ」が協力隊コーディネーターとともに地域のみな、現・協力隊員やOB/OGにヒアリングを行うなど、インターンシップを体験しました。

地域おこし協力隊コーディネーターに弟子入り



地域おこし協力隊にインタビュー



廃校宿泊施設運営の体験



古民家宿泊施設体験

実践を通しての学習プログラム

CBL

丹波篠山を舞台にした地域プロジェクト実践を通じて、地域ビジネス実践者に、その技術やノウハウ、理念などを学ぶ学習(Community Based Learning)です。限定8名の少人数制で、スクール生それぞれのビジネスモデルのヒントになるプログラムを設計しています。



宿・旅行業ビジネスをつくらう



地域エネルギー会社をつくらう



シゴトを活かした地域の拠点づくり



里地里山創造のコミュニティビジネス

セミナー

大学教員や実務家による講義形式のセミナーです。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講義の一部はオンライン併用で実施しました。対話と事例を重視しながら、地域でビジネスや活動をおこなう上で必要とされる、基礎的な理論や考え方を学ぶことができます。2020年現在、全6つのセミナーが開講され、スクール生は、各自のテーマや興味関心に合わせて3つのセミナーを選択し、受講し、ビジネス創出に必要な基礎知識や手法を学ぶことができます。



食と農の流通とマーケティング
岸上 光克 (和歌山大学食農総合研究所 教授)



ビジネスモデルデザイン
岡田 明穂 (一般社団法人関西eラボ 代表理事、ビジネスモデルイノベーション協会 理事)



農村イノベーション
中塚 雅也 (神戸大学大学院農学研究科 教授)



起業のためのファイナンス
忽那 憲治 (神戸大学大学院経営学研究科 教授)



地域の成り立ちと構造
奥村 弘 (神戸大学大学院文学研究科 教授)



コピーライティングとデザイン
二階堂 薫 (コピーライター / 文案家)



横山 宜致 (兵庫県丹波の森協会丹波の森研究所 専門研究員)

地域おこし協力隊

丹波篠山市地域おこし協力隊は、①現役の学生や大学院生・大学等研究員が協力隊員となり、学業と並行して調査研究を行いながら受入地域の活動を支援する「半学半地域」と、②地域資源を活用して起業を目指す人が協力隊員となり、成果を地域に還元する事業を行いながら受入地域の活動を支援する「起業支援型」の2つの活動形態を設けています。学生の挑戦する力と起業、研究といったそれぞれのアプローチから地域課題の解決を目指すとともに、挑戦的な事業を展開していきます。2020年度は7名の隊員が市内各地で活動しました。

就農に強い
集落づくりを自覚する

起業支援型
新田 哲也 (2017~)
「解体所 カリーマン」
◎ 船場地区

ベーカーリーカフェと
教育事業による
地域おこし

起業支援型
児島 佳史 (2019~)
「ベーカーリーカフェ HikoOKI」
◎ 日置地区

自然療法サロンの運営

起業支援型
谷本 美智子 (2019~)
「草木を用いたアロマドリートメント」
「蕎麦などの地域資源発掘」
◎ 西紀北地区

地理学研究と
コースづくり

半学半地域
花谷 和志 (2019~)
「東部6地区における
地域コミュニティの醸成」
◎ 香部地区

観光・移住促進となる
ゲストハウスの運営

起業支援型
仲田 友香 (2019~)
「Aosashi GUEST HOUSE」
◎ 船場地区

宿泊施設や
地域シェアオフィスなど
地域資源を活用した
活動

起業支援型
佐藤 大洋 (2020~)
「泊まれる学校おくも村」
◎ 大手地区

持続可能な暮らしを実現し
地域を元気にする

起業支援型
廣川 景俊 (2020~)
「パーマカルチャーを実践できる
集まり」
◎ 大山地区

3 活動・情報支援

セミナー・
イベント開催
23 件

2020年度は、丹波篠山市に関連する大学の活動・研究の成果発表の場として「第1回丹波篠山研究発表会」を開催し、神戸大学に限らず、他大学の学生や研究者と地域の連携を図っていく契機となりました。新型コロナウイルス感染拡大により多くのイベントが中止となりましたが、神戸大学の留学生日本文化見学旅行や、地域おこし協力隊ミニサミットのリモート会場などのイベントを受け入れました。また、神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボでは、スクール関係のセミナーを開催しました。

視察件数
9 件

新型コロナウイルス感染拡大により直接の訪問が制限される中でも、ラボ・フィールドステーションで行う事業全体に対して、丹波篠山市外の行政団体等の視察を受けました。とくに地域おこし協力隊のコーディネーター業務に対する関心が高く、他の自治体の地域おこし協力隊員や行政担当者の訪問が多かったほか、大学との連携事業、シェアオフィスに関する問い合わせがありました。その他、篠山イノベーターズスクール事業の展開状況や事業連携の可能性に関する問い合わせも多くみられました。

相談件数
147 件

地域おこし協力隊の受入れを検討するために、制度や活動内容について地域の方が相談が訪れるなど、地域からの活動相談は、コロナ禍の中でも大きく減少しませんでした。これまでの地域おこし協力隊の活躍が地域における協力隊の認知度を高めてきていることがうかがえます。また、丹波県民局や丹波篠山市からの施策検討に対する相談、市内の学校からの大学との連携の相談が多く寄せられました。

施設利用件数
133 件

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、企画イベントの多くが中止となったため、施設利用件数は大きく減少しました。一方で、オンラインでのイベントや会議等が増加したことから、インターネット接続やカメラ・マイク等の視聴環境が整っているフィールドステーションでは、市役所関連の施設利用が増加しました。

学生活動団体

毎年、丹波篠山市内の異なる地区で実施されている実践農学入門や実践農学に参加した学生らが自主的に学生団体を結成しています。活動目標や取り組み内容は様々で、それぞれが特色やこだわりを持って地域と連携した活動をおこなっています。楽しみながらも、継続的に地域のさまざまな課題解決にチャレンジしています。



にしき恋
◎ 西紀南地区
2013年結成。地域密着を理念に、毎週末農業ボランティアや黒大豆の栽培、地域交流等を行っています。



おくものがたり
◎ 大手地区
2017年結成。地域イベントに参加したり、農家のお手伝いを定期的に行っています。



AGLOC
◎ 岡野地区
2016年結成。地域と世界を繋ぐをテーマに、留学生とともに月1回の農業ボランティアや地域活動を行っています。



学生活動団体連絡協議会(ささ連)
◎ 丹波篠山市
各学生活動団体が集まり、丹波篠山市全域の活性化を目指して、活動内容の共有や地域の枠を超えた連携を図っています。年度末の丹波篠山研究発表会では他大学の学生とも交流がありました。